

平成20(2008)年12月20日

# 第 39 号

発行人 世田谷稲門会  
 編集人 岩寺上島村内  
 編集人 岩寺上島村内  
 編集人 岩寺上島村内  
 編集人 岩寺上島村内

事務局 〒156-0043  
 東京都世田谷区松原5-19-4  
 横田吉明方  
 TEL/FAX 03-3324-7046

# 世田谷稲門会会報

## 広岡達朗氏が講演

### 新春懇親会

一月三十一日(土)こまばエミナースで

新春懇親会は一月三十一日(土)午後五時(開場四時半)から「こまばエミナース」で開催することになった。

第一部では往年の名遊撃手、名監督、そして解説者として活躍されている広岡達朗氏に「私の野球人生」と題して講演していただくことになった。

第二部の懇親会ではプロック別のテーブルで会食を楽しみながら新会員の紹介、福引抽選会などの企画が予定されている。また会場では今年も写真部会の会員の作品が展示される。会費は八千円。



五八年 巨人軍を破り、二年  
 松太郎賞を受賞。  
 ゴンズを破り、二度目の正力  
 監督に就任。一年目に中日ドラ  
 五七年 西武ライオンズの監  
 督に就任。一年目に中日ドラ  
 の正力松太郎賞を受賞する。  
 トを初の日本一に導く。最初  
 オリックス)を破り、ヤクル  
 五三年 阪急ブレーブス(現  
 の監督に就任。

連続、監督としては通算三度目の日本一になる。  
 六〇年 西武をリーグ優勝に導いた後、退任、NHK野球解説者になる。  
 平成四年 野球殿堂入り。  
 七年 千葉ロッテマリーンズで日本初のGM(ゼネラルマネージャー)に就任。  
 八年 秋にロッテを退団  
 現在、野球解説者。  
 著書「意識革命のすすめ」(講談社)、「積極思想のすすめ」(講談社)、「勝者の方程式」(講談社)、「成功への羅針盤」(産経新聞社・扶桑社)「監督論」(集英社)、「野球再生」(集英社)ほか。

## 世田谷稲門会ロゴマーク決定

前回の会報で募集しましたロゴマークが一〇月の幹事会で決定しました。今後、ホームページ、会報などで使用します。



制作者：岩城 好宏 氏  
 (昭和三四年・理工)

制作の意図：「世田谷区と早稲田大学の共通モチーフを思考して、区のシンボル花『サギソウ』を圖案化し、大学のイニシャル『W』を組み入れました」



今年度の稲門祭は一〇月二六日(日)に開催された。昨年は一二五周年行事と重なり大変な盛り上がりを見せたが、今年は曇りがちで午前中には一時小雨もぱらつくなど出だしは低調だった。

しかし三九年度、三九年度卒の方々のホムカミングデーの行事が終わったところから、

# 今年も賑やかに稲門祭開催

最後にチアリーダーを先頭に応援部のブラスバンドが入場行進して登場するころには庭園は校友でいっぱいになった。



また大隈講堂などで音楽部のOB、OGの演奏会が開催されたのをしめ今年度からはリールガロイヤルホテルで懐かしダンスパーティーも復活、

大隈庭園も賑わいはじめ、世田谷稲門会のやきとりコーナーをはじめ各区が出店したお店も繁盛しはじめた。庭園ではジャズ演奏、ちんどん屋、フラダンスなどが次々に出演、

恒例の福引抽選会など沢山の催しが行われた。世田谷稲門会のやきとりコーナーは天気が良いことがもたら、売上げが気になったが、最終的にビールは少し売れ残ったものの、焼き鳥は今年も完売した。

## 母校の今 — 第13回 —

### 河田町キャンパスに「早稲田大学 先端生命医科学センター」創設

今年3月、「東京女子医科大学・早稲田大学連携、先端生命医科学研究教育施設(略称:ツインズ)」である「早稲田大学 先端生命科学センター(河田町キャンパス)」が、新宿区若松町の東京女子医大の隣接地に完成した(写真)。施設の敷地面積は7016.89平方m。建物は地下1階・地上3階で延べ床面積20062.44平方m。

この施設は、「医学と理工学両分野の学問的融合」を基本的なコンセプトとして計画し建設された施設。早稲田大学の生命科学分野の新拠点として教育・研究を展開するとともに、東京女子医大の医療臨床分野と融合した新たな学問領域を創出し先端医療の開拓も行うという。

これにより、国際競争力をもつ新たな医療技術の開発や、生命科学の新しい展開が期待されている。同時に、同じコンセプトのもとに新しい大学院を設立、先端医療の研究・開発・実践に従事できる研究者、技術者、医師を育成することも目的にしているという。ちなみに、この施設は両校の専有するスペースの他に両校が共通に使用する施設を有することが特徴。

なお、同施設には生命医科学科の10研究室、電気・情報生命工学科の5研究室、総合機械工学科3研究室、ならびに教育学部の生物専修の研究室が移転を完了した。早稲田は、さらに「生命医科学」という先端分野で着実にその歩を進めている。

(大内 秀行/記・撮影)



# 夜景の中で歓談 屋形船で稲門祭(納涼会)

今年の世田谷稲門祭納涼会 二艘の屋形船に分乗は九月十三日(土)夕方五時半 して浅草橋を出発、おから隅田川の屋形船を借り切 台場沖に向かった。東 京湾の夜景を眺めな



がら、盛りだくさんの料理とお酒を味わいつつ歓談、船内のカラオケも大いに盛り上がった。一号船では鈴木

宏治氏の挨拶・司会進行、大須賀肇氏の乾杯発声で開宴。揚げ立ての天ぷらや刺身が次々に出され、飲み放題のアルコール類も加わって談笑した。稲門祭の案内と福引券の斡旋があった後、蒲原信一氏の手配でカラオケが始まり、のど自慢の参加者が相次いでマイクを握り、途切れることがなかった。恒例の締めめの校歌斉唱は時間切れで見送りになるほどだった。



二号船は寺島邦夫氏の司会進行で、岩上健一氏が挨拶、前原祖彦氏が乾杯の音頭をとった。簡単な自己紹介の後、飲食を楽しみつつ歓談に移ったが、こちらでもカラオケが人気。特に会員の奥様が相次いで美声を披露し、喝采を浴びた。最後は校歌斉唱で声を張り上げて下船、散会した。

## 情報カイド

### 秋季代議員会開催

秋季代議員会が九月二十六日(金)に大隈講堂で開催された。最初に白井克彦校友会長(総長)がNEXT125などこれ

からの大学の活動方針などを説明、続いて福田秋秀校友会代表幹事からの挨拶のあと、代表幹事が議長となり、二〇〇七年度の決算報告と推薦校友候補者承認の件の協議事項と賛助代議員名称贈呈の件などの報告事項があった。その後大隈ガーデンハウスに移動して懇親会が催された。

### 東京都二三区支部大会の予定

東京都二三区支部大会は二〇〇九年三月八日(日)にリーガロイヤルホテル東京で開催される。なお弁士・会費など詳細は未定。

## 会員動向

### 下条忠雄氏に旭日小綬章



世田谷区議会議員として世田谷区民に対し二八年間(七

期)貢献された下条忠雄氏(昭和三四年政経)が平成二十年の秋の叙勲において旭日小綬章(旧勲四等)を授与された。十一月五日に東京都庁で石原知事より勲記、勲章が伝達され、十三日には皇居豊明殿で天皇の拝謁を受けられた。おめでとございます。

## 部会だより

### パソコン

7月より役員人事が「代表：荒井清 企画：上田忠雄、高橋昇三 会計：大丸 清太郎 監査：竹村晃」の各氏で正式部会としてスタートしました。

勉強会は月2回（第2・第4火曜日午後）開催され、毎回7～8名が出席しています。10月までの主な学習内容は、○エクセルによる住所録作成 ○ホームページビルダーの使い方 ○ショートカットキーの便利な使い方 ○パソコンソフトの最近動向 ○拡張子について（データ移入）○Microsoft Office Word 2007での表作成、等です。参加者は経験や技術に関係なく、自由闊達な雰囲気の中で身近なQ & Aを含め自己研鑽に励んでいます。なお、7月27～28日には温泉教室（厚木市七沢温泉）が開催され、親睦と大山詣でを主に7名参加、8月は休会しました。

（岩城 好宏 / 記）



### 芸術・芸能鑑賞

いよいよ歌舞伎・文楽・演劇も案内。新入会を歓迎

今年7月に新規発足した「芸術・芸能鑑賞部会」は第1回の「イベント情報」を7月末に案内した。今回は会員及びその家族の方々の出演を中心に紹介した結果、総数で延べ65名の方々の参加・鑑賞が実現した。一部のイベントでは鑑賞部会員による公演後の懇親会を行い、秋の夜長に“芸術の秋”に相応しい芸術論に花を咲かせた。日付け順で・9月27日、会員・花田玲子さん出演の「懐かしの映画音楽アルバム」・9月30日、金美智子会員のご主人及びご子息出演の「パロック音楽の夕べ」・10月11日、矢田会員のお嬢さんの「矢田ちひろピアノリサイタル」・10月23日、花田さん出演の「るたんフェスティバル」・10月25日、岡村喬生会員の「喜寿記念日に歌う、思い出の歌」などレベルの高い素晴らしい熱演を存分に享受した。第2回目の案内は、アンケート調査で希望の多い歌舞伎・文楽・演劇・落語・クラシック・ジャズなどを中心に鑑賞会の案内、紹介をしたい。今後、回を追ってご案内の質を高め、その範囲も広めたい。また公演の出演者との交流会も企画する予定です。

新規入会を歓迎いたします。下記にご連絡下さい。イベント参加の際はご家族・友人・知人をお誘い下さい。

◇世話人：柏良子・麻生卓司・鈴木宏治＝携帯 090 - 2520 - 9576 （代表世話人 鈴木 宏治 / 記）

### スポーツ観戦

早大野球部2季ぶりの優勝

11月1日（土）秋の東京六大学野球早慶1回戦を快晴の神宮球場で30名が観戦しました。春の悔しさを晴らす3対1の快勝でした。今季6勝を上げて優勝に貢献した斉藤投手の活躍を初め上本、松本両選手は同時に通算100安打を達成したシーズンでした。東京六大学秋季ベストナインには斉藤、細山田を初め原、宇高、松本が選出された。しかしシーズンを振り返ると、法政、明治、慶応の強化策も早大を脅かすもので、一層の努力

が望まれます。野球観戦中に大学ラグビーは帝京戦で7対18で敗れ、連勝が53でストップしたとの情報が流れた。この後の早慶戦、早明戦の健闘が期待されます。次号の報告はラグビー早明戦を予定しています（写真は早大広報室提供）。

（岸田 正和 / 記）



## 麻雀

(1) 7月20日(日)うだるような猛暑の日、26名の紳士淑女が祖師谷大蔵駅前の雀荘「天狗」(以下、3区親善大会を除き会場は同じ)に集い、腕と口をフルに使い麻雀を楽しんだ。試合は初回から飛び出した江口氏を河村(卓)、宮本、草野各氏が追う展開となったが、江口氏が長年の雀歴を生かし、2位以下に大差をつけ久し振りに優勝した。優勝:江口力、準優勝:河村卓郎、3位:宮本甫、4位:草野昭次、5位:国澤俊一、6位:下谷内堯

(2) 8月23日(土)酷暑のもと当部主催で世田谷、目黒、渋谷の3区親善麻雀大会を渋谷駅前の雀荘「スリーハンドレッド」で開催した。当部からは11名が参加し、次の方々が上位入賞した。3位:山本英親、4位:武田一成、5位:橋本大道、8位:奥田隆、12位:江口力

(3) 9月14日(日)残暑厳しい日、30名の善男善女が集い、腕を競った。混戦の中、試合巧者の大矢氏が追いつがる高橋、寺澤両氏を僅差で下し、優勝した。優勝:大矢和親、準優勝:高橋毅、3位:寺澤隆夫、4位:池田良夫、5位:長谷川義樹、6位:上保幸夫

(4) 10月18日(土)雲ひとつない秋晴れの下、麻雀が飯より好きな25名の男女が集い、卓を囲んで真剣勝負した。試合は初回から猛ダッシュした河村(卓)氏が追い上げる能、武田、蔭山各氏を僅差で下し、優勝した。優勝:河村卓郎、準優勝:能俊彦、3位:武田一成、4位:蔭山康夫、5位:小山泰彦、6位:郡山弘文

(下谷内 堯/記)

## ゴルフ

ゴルフ部会では本年度も4回のコンペが開催され、全体で延べ168名(昨年度より23名増)の方々が参加されました。お陰様をもちまして例年の如く中津川CCで幕を開け、飯能GCで納めのプレーとなり、この8カ月間素晴らしき仲間と共に緑の中で楽しく過ごすことができました。また、グランドシニア(75歳以上)の部門を設け、一段と優勝争いに熱がこもり、更にはシニア(70歳以上)並びに女性の皆様の活躍が光ったシーズンでもありました。

さて、熱戦が繰り広げられました後半2回のコンペの様態をご報告します。本年度3回戦目となった第56回コンペは、9月19日に初めてのファイブハンドレッドクラブで開催。台風の接近で大雨になるのではないかと危惧されましたが、幸運にも殆ど雨に降られず、43名の参加者と共にすばらしいコースをエンジョイできました。各クラスの荣誉に輝きましたのは次の方々(敬称略)です。

優勝者 総合:守谷之男、Gシニア:寺澤隆夫

シニア:土倉享一、レディス:竹入啓子

次に、今シーズン最後を飾った第57回は11月7日、飯能GCにおいて43名が参加、早朝は小雨模様でしたが、スタート時には上がり、しばし日も差す温かなゴルフ日和となりました。見事有終の美を飾られたのは次の方々でした。

優勝者 総合:宮坂尚利、Gシニア:白木 茂

シニア:広田 進、レディス:犀川千代子

来シーズンの開催日程については次回会報でお知らせしたいと思います。また、現在98名の部会員がおいでになりますが、いつでも新しい方々のご参加をお待ちいたしています。

(熊谷 慶紀/記)



左から 土倉さん 寺澤さん 守谷さん 竹入さん



左から 犀川さん 白木さん 宮坂さん 広田さん

## ボウリング

引き続き世田谷オークラブボウルにおいて、毎月渋谷稲門会と合同して、和気あいあい投球を楽しんでおります。最近の実績は次の通りです。

7月13日(日)、参加者15名。154点・斉田祐二、153点・江口力、150点・高橋善一郎。150点台で3名がシソーゲームの熱戦、観客席を喜ばす。

8月31日(日)、参加者12名。175点・佐山順孝、153点・斉田祐二、143点・加藤隆夫。佐山さん、10フレーム中8フレームを3ストライク、5スペアのほぼ完璧な投球で見事な高得点! 斉田さんもスピード豊かな投球で、加藤さんも制球力の良さで共に大健闘。

9月28日(日)、参加者14名。132点・天野善弘、124点・高橋善一郎、124点・高橋順子。今回はレーンのせいかな? 得点が思うように伸びず、実力派の天野さんがトップ、高橋さんご夫妻が同点で仲の良さを見せてくれたのが素晴らしい。

11月3日(月)、参加者10名。157点・佐山順孝、153点・武藤哲、124点・江口力。佐山さんが抜群のコントロールを見せてほとんどミスのない投球。小生武藤、初めて10ポンドのシニアボールを使って投球、ぴったりマッチして実力以上の得点。江口さんもスピードを抑えた頭脳的な投球で健闘。

ボウリングは参加人口No1のスポーツとか。最近は親子、夫婦など家族連れも多く、どなたでも気軽にできるスポーツ。健康にも最適。ピンを倒したときの気分は最高! 思い切って始めてみませんか。ご参加をお待ちしています。

(武藤 哲/記)

## 囲碁将棋

深まり行く秋の長雨もあがり、紅葉も一段と色づいてきた11月2日(日)、世田谷区内上用賀に所在する社会福祉法人老人休養ホーム「ふじみ荘」にて、第33回囲碁の会を1泊の合宿で開催した。全員10時に集合し、まずは朝風呂へ。ここの風呂は、近くにある世田谷区のごみ処理場の燃料で沸かしたお湯を引いているが、大風呂の設備も行き届いており、綺麗で快適である。世田谷稲門会囲碁部も平均年齢はかなり高くなってきており、レベルがアップしてきたので、商議員で校友会幹事の志水一夫8段を迎えて碁戦を行う。武藤7段、斉藤6段、蒲原5段以下参加者総勢10名。



1局また1局と局面が変わる。一手一手に力がこもる。碁はよく対戦者同士の石を通しての対話であると言われるが、そこに打つにはそれぞれ対話の意味がある。相手にとって意味のある手、ひびく手が毎回打てるようになると上達したことになる。序盤、中盤、寄せでそれぞれの着手の意味が理解できれば碁は更にうまくなる。2～3局打って昼食。食事は食材も多く、区からの補助があるのか結構廉価で食べられる。時間がたつのは早いものだ。5時半まで対局した後は懇親会場へ。ここでも囲碁談義。9時頃まで飲みかつ食べ、そして懇談。その後また対局。しかして就眠は午前1時頃になる。翌朝7時に朝風呂へ。8時に朝食後午前中いっぱい対局し、お昼を食べて散会した  
(矢田 廣/記)

## カラオケ

当部会では9月21日～22日の両日、恒例のカラオケ旅行を開催しました。その概要をお知らせしましょう。この旅行は単にカラオケだけではなく温泉付き、グルメ付き、加えて周辺の観光を楽しむといった欲張りな内容です。今回の目的地は湯の里、伊豆長岡、宿は第1号湯として有名な「いずみ荘」という老舗です。この宿の自慢は源泉掛け流しの銘泉で、泉質はアルカリ性単純泉で美肌効果が高いこと。この湯を愛した文豪・武者小路実篤が晩年当宿を我家のように利用したことは有名で、関係資料が沢山残っています。また料理は、地元の食材を使った創作会席が好評です。

今回の参加者はゲストを含め総勢12名、本部から特別ゲストとして岩上会長にご参加いただきました。宿に到着した参加者は、まず名湯でお肌を磨いたあと、宿自慢の料理と地酒を堪能、余興の「ご当地クイズ」に挑戦しました。これは地元の歴史や文化、宿の生い立ちなどに関し、世話役が用意した質問に答えるものですが、武藤氏が見事優勝、お土産をゲットされました。宴の後はいよいよカラオケタイム。宿のサロンを借り切って、一杯やりながら各自持ち歌を披露、演歌、バラード等、賑やかでした。最後は岩上会長に締めさせていただき、校歌を斉唱、お開きとなりました。翌日は朝食後、宿の専用バスで周辺の観光に出発、美術館、葦山反射炉、願成就院等、名所史跡を探索。昼食をとったあと、三島駅で無事散会しました。  
(蒲原 信一/記)

## ウォーキング

当部会では毎月1回(5月と10月は2回)各地の名所や史跡を巡るウォーキングを実施している。今回は10月の2つの定例会を紹介する。

10月12日(日)午後1時JR田町駅に16名が集合、「都会の秋を歩くコース」をスタートした。まず秋晴れのビル街をのんびりと芝公園に向かい、樹木の茂る広々とした園内を散策し、隣接する徳川家菩提寺の増上寺へ。この日は「みなと区民まつり」が開催されており、物産展や家族連れで大賑わい。特別公開中の徳川將軍墓所や着飾った子地藏などを観て回った。続いて東京タワーを経由して東京23区内最高峰の愛宕山へ向かう。愛宕山は急な石段の「男坂」を避けてエレベーターで昇り、NHK放送博物館を見学。愛宕神社に参拝した後ゆるやかなスロープ「女坂」を下り、愛宕山下で解散した。  
(岩村 明彦/記)

10月22日(水)午後1時東急東横線学芸大学駅に14名集合。碑文谷公園に於ける体操でウォーミングアップ。サレジオ教会では聖堂内に入ることが許され、暫し敬虔なる気持ちとなって拝観。続いて円融寺に立ち寄り、国の重要文化財に指定されている釈迦堂の入母屋造りの優美な屋根に感嘆。碑文谷八幡宮の社を経て、住宅地の真ん中で今なお鬱蒼たる竹林を残す“すずめのお宿”へ(写真)。敷地内に保存されている古民家では座敷に上がって暫し休憩。あとは、かつての街道筋に残る民衆信仰の色濃い庚申塔など見ながら、一路ファッションナブルな自由が丘の街に到着して解散。ウォーキングには1年を通じ一番良い気候に恵まれた日であった。  
(加藤 隆夫/記)



## 食べ歩き

9月26日、第37回例会を開催。参加者27名。今回は不忍池畔のホテルパークサイド内「蓮風」(りんふう)の和様式趣向の落ち着いた雰囲気個室で真鯛の中国風生き造りを初めとする中国海鮮料理を賞味した。岸田正和氏の司会により進行。大須賀肇代表世話人の挨拶並びに会務報告があり、その中で平成19年度当部会の事業報告、会計報告、監査報告が提案され、満場一致で承認された。加藤隆夫氏の乾杯発声で開宴。海鮮料理の美味を称え紹興酒に酔い歓談が弾み、最高に盛り上がった。中締め挨拶に立った柏長子副会長から次のような話があった。



『近年高齢化に伴い老人性認知症が増加傾向にある。その防止対策は医者のお話では、次の3点が重要とのこと。①1日20分以上の歩行を行い足裏刺激に努める②人々との会話を楽しみ頭脳を活性化させる③バランスの良い食事をとるよう心掛ける。食べ歩き部会の会合では②③の条件を充分満たしているうえ、食事後の名所旧跡等の見学は散策歩行と感性を養うことにもなり①の条件も満たす最も適した部会活動であると思うので、皆さんの積極的参加をお勧めしたい』 散会後は付近の旧岩崎邸(写真右)と庭園(三菱財閥岩崎家本邸として明治29年に完成した木造建築で都の重要文化財)を見学。その建築様式美に感動し、大名庭園の形式を一部踏襲したといわれる芝生の緑がひときわ美しい広大な庭園を散策した。なお、今回新世話人として庄司真恵さん(昭43教育)が就任されました。

(大須賀 肇/記)



## 写真

10月の例会は16日(木)に開催しました。10月は会合や行事が多く、また風邪等で参加者は少なかったが、面白い内容でした。通常は風景を中心に作品の発表が多いのですが、今回は旅行での撮影風景が数多く出ました。高橋毅氏(昭39商)の山口県の錦帯橋から始まり島根県の歴史的建造物の紹介に至る写真と解説があり、浮田靖彦氏(昭34法)のクイズ形式の中南米の民族や東南アジア(カンボジア)民族の紹介、そしてヨーロッパや中南米の山岳の写真と地質学の関係、岡田吉郎氏(昭35理工)のイギリス南部と湖水地方の写真、種谷鴻成(昭31理工)のベトナム南部のホーチミン市とダラットにおける経済発展著しいベトナム市民生活の実態写真と報告などがありました。写真以外の勉強にもなった例会でした。

2009年の例会の予定は1月15日(木)、2月はお休みし、3月19日(木)になります。

(種谷 鴻成/記)

## 釣り

最近他稲門会よりの入部が増え34名の部員数となった。

8月3日 千葉花見川にてハゼ岡釣り。常連の4名が参加、30~40匹。今年は型の良いウロハゼのみであった。

8月23日 松輪沖利一丸よりアジ・サバ釣り、8名参加。潮が早く全く釣りにならず、潮止まりに数匹釣れたのみ。

9月13日 江戸川行徳にてハゼポイント釣り。8月に1日に1600匹/人出た伊藤遊船へ行くも8月下旬苦潮が出て大量死となり、全く釣れぬとのこと。ポイントは中止し、花見川に行くも、こちらでも不漁でした。

9月27日 松輪沖ワラサ・イナダ釣り。利一丸より7名参加。ワラサ船中2本のみ。イナダ西尾さん11本頭に3~4匹/人。イナダ大型は50斤強。

10月19日 ハゼ天ぷら船・富士見より11名参加。当初参加者規定の10名に足らず、新宿、大田稲門会より4名参加してもらい、11名で出船。当日風雨強く早めに天ぷら宴会とする。船上の天ぷら、地元ハマグリ、あさり佃煮も美味、楽しい飲み会となる。

11月9日 松輪沖ワラサ・イナダ釣り。利一丸より6名参加。薄曇りの天候なれど風波無く、イナダ好時期のため40~50艘の船団。ワラサ船中一本であったが、イナダも50斤強となり、真鯛、ソーダ鯉、カサゴ等程ほどの釣果があった。乗合料金並みの仕立船。

(今後の予定)1月1~2日、東伊豆磯・堤防釣り。10日、ヤリイカ沖釣り、西伊豆戸田港ふじ丸。2月8日、ヒラメ沖釣り、戸田港ふじ丸。

(柴田 昇/記)



## ブロック会だより

### 玉川

皆様は毎年8月に行われる多摩川の花火大会のことは良くご存知と思いますが、翌日に行われる後片付けの清掃ボランティア活動・通称『多摩川クリーン作戦』はご存知でしょうか。小生も知らなかった一人ですが、今年この『多摩川クリーン作戦』に、世田谷稲門会玉川会として参加いたしました。8月16日の花火大会を見た人も見なかった人も、翌8月17日朝に二子玉川駅近くの兵庫島に集合。学校や町内会等のグループで総勢は200～300人でしょうか。玉川会では、このボランティア活動歴10年以上のベテラン岩沙さんやご夫婦で参加された小山田さん、それに活動本部の池田さんも含めて総勢13名が、8時から清掃を開始しました。

清掃エリアは思ったより広く、始めは一般ゴミを拾っていたのですが、次第に打ち上げ場所に近づくと明らかにそれとわかるボール紙の花火玉の破片が散乱していました。花火滓は結構多く思ったより重労働でしたが、幸い曇り空で日差しがなく、時間の経つのも忘れて(?)清掃に熱中し、気が付けば終了予定の11時になっていました。大きなゴミ袋を抱え兵庫橋の本部へ歩きながら「要領がわかったので来年は最初から打ち上げ場所へ行こう」と話し、その後皆でコーヒーを飲んで打ち上げとなりました。

(林 馨/記)



### きぬた

「どのような“催し”にすれば、会員の皆さんに喜んで頂けるだろうか」をテーマに、場所・時間 等を含めて、鋭意 研究中といったところです。「世話人会」で良いヒントをいただき、その後の“きぬた会・世話人会”でいろいろとプランを考えたいと思っています。

(吉村 豪介/記)

### キャロット

キャロット会では今年1月、世田谷稲門会に出席された10名の方に催しものに関するアンケート調査をとりました。その結果①懇親会の開催数は年2回が最も多く8名②催しものは音楽会が2名、落語会が2名③趣味の集まりは「水彩画」「川柳」「映画鑑賞」「区内の名所巡り」「七福神巡り」等④その他としては「会員の自己紹介の場」「テーマなしで談論」を企画して欲しいとの要望がありました。



このアンケートに沿って今年は6月にシャンソン・カンツォーネを生で聴く音楽会、11月には忘年会に落語家さんを招いて一席伺ってもらいました。趣味の会は残念ながら開催できませんでした。2009年は6月にカントリーウエスタンの音楽会を、11月にはまた落語家さんに来てもらおうと考えています。

(富塚 兆弥/記)



# さくら

第15回さくら会は平成20年10月19日(日)午前11時30分から桜新町イタリアンレストラン『ラ・ピアンタ』にて開催されました。出席者総勢17名。今回のさくら会は日曜日の昼食会といたしました。なお、引き続き女性会員から昼食会希望の要望もあり、当面、懇親会は昼にしたり、夜にしたりしますが、あしからずご了承いただければ幸いです。さて、今年から行っておりますさくら会の会員の方の『わが人生を語ろう』について、前回まで中瀬正一氏、前原祖彦氏、関根昌一氏、上田忠雄氏、栗山佳三氏に語っていただきましたが、今回は若林昭男氏にお願いをいたしました。お話の概略下記の通りです。

若林氏は昭和31年に早稲田大学理工学部応用化学科をご卒業されました。就職先は電気化学工業株式会社です。化学工業界は扱い種目によっては昔から公害を出す可能性が多い業界ですので、公害防止が業界でも重要なテーマでありました。氏は化学工業のあり方につき同社にて長年研究をされ、同社を化学工業界の中でも有数の無公害企業に育て上げられました。化学工業のあり方につき幾つか具体的な公害の例をあげて説明あり。以上、大変有益なお話をいただけたことに感謝いたします。



若林昭男さん

鈴木副会長より稲門祭での販売品目に焼き鳥を選んだ経緯、出展準備苦勞等、並びに芸術・芸能鑑賞会発足後の進行状況等の説明がありました。江原世話人より俳句の会の近況報告並びに俳句の会のメンバーの再募集を含めてPRがありました。次のさくら会は2009年2月15日(日曜日)午前11時30分から『ラ・ピアンタ』で行う予定にしております。  
(矢田 廣さくら会代表世話人/記)

## 俳句の新会員を募集

さくら会では高橋悦男先生(世田谷稲門会員、早稲田大学の俳句講座を担当)の指導により、毎月一回俳句の会を楽しんでいます。ご承知のように、俳句は紙と鉛筆一本あれば、何時でも何処でも、四季折々の素晴らしい日本を鑑賞できるので、人生の楽しみを倍増させてくれます。

新年を迎えるに当たり、これから俳句を始めようかと思う会員の皆様も、ぜひ私達の句会に気軽に参加してみてください。一報下されば、案内資料をお送りします。

世話人・江原利次(昭三一商卒)  
電話/FAX 5760-7118  
メール toshi@f01.itcom.net



## ブロック会世話人の会開催

七ブロック会の世話人と本部執行部の意見交換会が十一月十九日(水)にNHK青山荘で開催された。

本部からは岩上会長、柏ブロック会担当副会長、麻生幹事長、横田事務局長、寺島広報統括とブロック担当幹事の兼子幹事、山崎幹事が出席した。

ブロック会からは世話人代表として西北会の松浦氏、千歳会の武藤氏、けやき会の下谷内氏、キャロット会の萩原氏(富塚氏の代理)、きぬた会の吉村氏、玉川会からは浜田、井沢両氏そしてさくら会からは矢田氏が出席した。

柏副会長の司会で会が進む、岩上会長の挨拶に続き、各ブロック世話人から会の現状と今年度の活動予定についての報告があった。

引き続き会食をしながら、ブロック会の今後のあり方、新規会員の勧誘方法、会費未納者への払い込みの要請、執行部への要望等の意見交換を行った。

## ブロック会

ブロック	代表	沿線〔参考〕	町名
A・西北会	松浦晋三郎	京王線代田橋～下高井戸 井の頭線池の上～明大前	北沢・大原・羽根木・松原・代沢・代田
B・千歳会	武藤 哲	京王線桜上水～千歳烏山	千歳烏山・桜上水・上北沢・八幡山・南烏山 北烏山・給田・上祖師谷・粕谷
C・けやき会	下谷内 堯	小田急線梅丘～千歳船橋	梅丘・豪徳寺・経堂・宮坂・桜丘・桜・船橋・赤堤
D・キャロット会	富塚 兆彌	田園都市線池尻大橋～駒沢公園	池尻・三宿・野沢・太子堂・若林・三軒茶屋 上馬・下馬・駒沢・駒沢公園・世田谷
E・きぬた会	吉村 豪介	小田急線祖師谷大蔵～喜多見	成城・砧・祖師谷・千歳台・大蔵・砧公園・喜多見
F・玉川会	浜田 康夫	大井町線自由が丘～二子玉川	奥沢・尾山台・中町・上野毛・等々力・玉川台・東玉川 玉川・宇奈根・玉川田園調布・瀬田・岡本・鎌田・玉堤
G・さくら会	矢田 廣	田園都市線駒沢大学～用賀	上用賀・用賀・新町・桜新町・弦巻・深沢

# 会員の広場

## いつも笑顔で前向きに 八十路でモダンダンス公演

加藤 禮子(昭和二七文)



故郷は大阪。大学入試のために、東京は世田谷に移り住んで六〇年を越えまし

た。今更ながら、月日の経つのは早いことと、驚きと感慨の想いでいっぱいです。

ときに最近、電車で席を譲られることが多くなりました。混み合っているときや荷物が重いときなどは、やはり助かります。白髪のおばあちゃんこと私、「有難う」と喜んで座らせて頂いているこの



加し、エネルギーを注いでくれました。ダンスと笑い！ソプラノの歌声、そしてピアノ『ち

頃です。足腰だけは丈夫と思っていたのですが、この取り柄もそろそろ返上でしょうか。とはいうものの、実は去る九月、モダンダンスのステージで踊るといふ思いがけない機会を与えられました。そのタイトルは『昔はこうだった。今だつて素敵でしょ』。女子体育指導者の舞踏研修の場として、約三〇年間続いている研究会の公演でした。若い頃のような軽やかなステップやジャンプは到底無理ですが、生きて在ることの喜びを大切に、今、そのありのままの私で、精一杯舞台を努めさせて頂きました。今回は二世たちも一緒に参

よつとギャグ的な発想で、人生を振り返ってみて下さい』というコンセプトで、ちよつびり新しい流れを感じさせるユニークな公演になったと思えます。

「わがまま」美女たち登場！「反抗期、またの名を青春」「心のいたずら」「愛の中のいじめ」「いけいけ人生！」などと続くなか、この私もソロのナンバーをはじめデュエット、また群舞にまで登場！緊張、緊張のステージでしたが、温かい拍手に包まれて無事に公演を終えることができました。当日は稲門会のお仲間も駆けつけていただけで、お心のこもった励ましを沢山頂戴いたしました。本当に有難う存じます。素敵な思い出がまたひとつ増えました。

ところでわがファミリーですが、息子夫婦も娘も、今や白髪まじりのおじさん、おばさんになりました。孫は高校一年生です。この孫がファイギア・スケートをしているので、私の気持ちとしては、なんとか頼れるおばあちゃんに居たいのです。ここ数年は、海外へも競技会の観戦に行つて、情報を仕入れておきます。八十路の坂を越えてなこうして元気に活動を続けて

いられること、とても嬉しく幸せに思います。

いくつになつても前向きに生きていく、その姿勢を私の中に育んでくれたのは、まさに戦後復興期の『早稲田』であつたと申せましょう。「素晴らしい師友」や「スケート部の仲間たち」と共に過ごした年月。それは、いつまでも私の心の宝物でございませう。

「いつも笑顔で 前向きに」  
—五年先、十年先の話はできな



い年齢になつたことを嘯み締め、改めて一日一日を大切に過ごしたいと願つております。世田谷稲門会のお集まりには、可能な限り出席させて頂こうと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 感動の国に魅せられて

### ニュージーランド紀行

菊池 吉婁(昭和三四政経)

「帰国時は日経平均五千円台も…」と気にしながら、米国の



知人の招待でフロリダに向かう家内と成田空港で別れ、ニュージーランドへ出発したのは、金融危機・世界的株安が一層深刻化した一〇月中旬だった。九州在住の友人とオークランドで落ち合い、男性二人だけの二週間の旅をスタートした。移住してゴルフガイドをしている現地の知人に、ゴルフやトレッキング、レンタカーでのドライブなど七〇歳代の二人には少々欲張りなメニューを注文して旅程を組んで貰った。

人口四百万足らずの小国だが、国土の広さは日本とそれほど変わらない。その結果、広大な南北両島を国内機で行き来しながら、五コースでのラウンドを間に入れ、レンタカーなどで春のニューージーランドを休みなく駆け巡るハードなスケジュールになった。

果てしない大草原に驚く  
旅のハイライトは南島。五日目から中心都市クライストチャーチを起点に、レンタカーでマウント・クックを経てクイーンズタウンへの千キロ近い長距離ドライブに挑んだ。車窓に広がる大平原は羊、牛それに鹿の牧場、気が遠くなるほどの緑色の草原を走り続けた。この国はもともと七〇%が原生林に覆われていたという。しかし先住民マオリに続いて入植した英国人が百年余りで英本土とすっかり同じ牧野に変えてしまった。三六〇度見渡す限りの大草原を見ながら、そのエネルギーと執念に恐れ入る思いだった。

ところで大きな都市などの地名は大体イギリス名だが、それ以外の地名はマオリの言葉が多い。同化策によるものだろうが、サザンアルプスの山は英

国風、一方湖の名は「ポカキ」や「テカポ」などマオリ言葉である。どんな命名基準かは聞き漏らした。四時間余りのドライブで鮮やかなコバルトブルーの湖を背景に、雪と氷河の峻しい岩山が連なるマウント・クック国立公園に着いた。

サザンアルプスで南十字星を見る。

快晴のこの日、山麓の日暮れは午後九時頃。空気が澄み切って明かりも少ない。満天の星空に南十字星や星雲の帯も見る



ことが出来た。ホテルには一九五三年エベレストに初登頂したこの国の英雄ヒラリー卿の記念館があった。昨年九〇歳近い高齢で亡くなったという。マウント・クックは富士山とほぼ同じ標高で、他のサザンアルプ

スの山も二千から三千級だが、ヒマラヤに似て峻険な岩山ばかりである。



奇跡的な快晴！フィヨルドランド  
南極海と反対側タスマン海に臨むフィヨルドランド一帯は、この国の代表的な世界遺産だが、年間降雨量七千ミリという世界一雨が多い地方。ところがクイーンズタウンから観光バスで五時間余りをかけて出かけたこの日は、見事な快晴に恵まれた。日本女性のガイドの説明によると一年に滅多にない天気という。

代表的なミルフォードサウンドの幻想的なフィヨルドを二時間余りのクルーズで堪能



する。「奇跡的な日本晴れ」とのガイドの熱心な勧めに乗せられ、帰途は遊覧飛行を奮発した。まじかに迫る岩山の中の飛行場から小型セスナ機が、いきなり

フィヨルドに向かって飛び上がった。切り立つ岩肌のサザンアルプスと点在する湖を見下ろしながら四〇分のスリリングな空の旅を満喫してクイーンズタウンに帰る。

通貨危機を実感 NDDドルの暴落

天候には恵まれた旅だったが、この間最果ての楽園のようなこの国も荒れ模様の世界経済に翻弄されていた。旅行を当初企画した夏に八〇円台だったNDDドルは、その後どんどん下落して出発前には六〇円台後半。到着日の空港での両替で六三円、さらに旅行中も下がり続け、帰国の前日には五〇円前半とわずかに二週間で一〇円以上の暴落。円高メリットは確かに受けたわけだが、ホテルや飛行機など大所の出費は予約時のレートでのカード決済である。円高の恩恵には残念ながら殆ど実感がない。

それはさておきニューージーランドは、まさに感動の国だった。荒々しい岩肌の雪山が連なるサザンアルプスと神秘的な湖、見渡す限り緑に覆われた大草原、剛と柔を組み合わせた景観にすっかり魅入られた二週間だった。

## 新入会・退会・住居変更のお知らせ

〔名簿〔平成18年4月発行〕と会報35・36・37・38号記載分〕以降〔敬称略〕

### 〔新入会員〕

氏名	卒年・学部	郵便番号	住所	電話	FAX
五十嵐 恭一	昭42 法				
小山 康彦	平10 文				
木村 威啓	平19 政経				
原田 律夫	昭34 法				
齋藤 律夫	昭40 法				
小川 稔	昭45 理工				
岩崎 矩夫	昭35 法				

個人情報につき不掲載

### 〔退会会員〕

氏名	卒年・学部	理由
小川 湛	昭33 理工	
村形 繁明	昭12 理工	
林 素行	昭42 政経	
原 明	昭37 理工	



© WASEDA UNIV.

### ホームページ・会報の制作・管理・運営者を募集

ホームページも本年九月から内容を一新し、より皆様にご利用をいただくようになつてまいりました。そこで、更に充実を図るために今般スタッフ（ホームページのデザイン、制作やシステム管理のできる方）を追加募集します。また会報の編集委員も募集しています。特に若い皆様のご参加を求めます。奮ってご応募ください。広報統轄 寺島邦夫  
電話/Fax 3413-5814  
メール terashimakunio@yhb.ne.jp

### 事務局だより

#### （第2回）

九月十三日（土）世田谷稲門会初の試みとして隅田川屋形船を借り切り納涼会を行いました。参加した六十名が二艘に分かれて乗船し、ベイブリッジ、お台場など東京湾の夜景の中に出て行きました。屋形船ではお刺身、焼き鳥、揚げたての天

ぷらなど食べきれないほどのお料理とお酒を楽しみ、また船内にはカラオケが有り、お酒がまわる頃にはのど自慢の方が次々とマイクを握り大いに盛り上がりました。その半面課題も多くあり、まず納涼会といながら時期が九月の中旬になったこと、また三連休の初日に設定したため予定の人数に満たなかったことなど、来年度の反省材料となりました。

（浜田 康夫/記）

### 「スポーツ観戦部会」記事不掲載のお詫び

前号（38号）会報でスポーツ観戦部会の記事を編集担当の不手際で掲載しませんでした。記事を提供していただいた岸田正和様初め関係者にお詫び申し上げます。

（会報編集担当

寺島 邦夫

### 編集後記

会報原稿の執筆者の皆さんにはメール送信にご協力いただき、編集上大変助かっています。一部の方からはまだ手書き原稿で頂いていますが、できれば会員の仲間や周りの方にお願ひしてメール原稿にしてから送ってもらえると、編集・制作作業がさらに合理化、迅速化できます。よろしくお願ひします。

（岩村 明彦）

毎回「会員の広場」は楽しみにしていますが今回も加藤禮子様、菊池吉晏様から素晴らしい原稿をいただきました。

反面三ブロック会からは活動なしの連絡があり最終的に紙面のやりくりで四苦八苦しました。

字数の多いのも困りますが穴埋め原稿の作成と印刷の締切時間との競争にも苦勞しています。

（寺島 邦夫）

早稲田小唄に、鉄拳高鳴る早稲田の杜に、誰が植えたかちよいと姫小松；とある。その早稲田の杜の姫小松が年々増加しているとか。時の流れのおもむくところ、かつてワセダの名物教授主唱の「女子大生亡国論」は歴史の彼方。近い将来、早稲田の姫小松パワー大ブレイクの予感が。

（大内 秀行）